

楽しく美しい まちづくり通信…⑤1

高清水稲荷の奇祭

人形祭り

す。人形の胴体を作る人、手足を作る人、男根を作る人、人形の顔を紙に書く人また、境内の清掃と全員で作業が進められます。

麦殻で作られた人形は男女二体、どちらも身長六尺位、男性の方は、偉大な男根を藁で作り、根元にはもろこしの毛をつけて飾り、頭にはちょんまげをつけます。もう一体の女の人形は、藁で作った女陰にもろこしの毛をつけてでき上がります。

作った人形は神社正面の柱にそれぞれ立てかけて置き、むら人はその脇に用意された棒に、家から持ち寄った家族の人数分の紐のついたせんべいを結びます。(せんべいは身体の悪いところにあてて病気を移したり、病気になるまいようお願いを込めたものです)

まもなくすると、神主が無病息災、五穀豊穰、家内安全を祈りお神酒をあげます。祝詞が終わると、太鼓や手平鉦などのはやしで人形を担いで拍子面白く踊りだし、境内を二・三巡します。その後、権現舞が奉納され

るといよいよ人形をリヤカーに乗せ旗を先頭に、権現様、せんべい担ぎ、はやしなどが行列を組む、子供たちの「ヤレヤレヨースヨイサー」のかけ声を響かせながら田んぼの間を通り館集落に上っていきます。そしてその年に新築した家に立ち寄って祝賀の権現舞などを踊り、行列は福

田集落を通り沢口橋まできて、橋の上から安比川へ人形とせんべいを流しお祭りが終わります。このように、むら人の願いごとを人形に託した行事はかつては、天台寺の近郷の集落に多くあったと伝えられています。現在は福田地区の人々によって続けられているだけになりました。市内には、この人形まつりによく似た中沢の虫追い祭り(七月二十日)があります。どちらとも市の無形文化財に指定されています。



御返地福田の高清水稲荷神社は、慶長十五年(一六一〇)頃に食物の神として祭られたのが始まりと伝えられています。その後慶應二年(一八八六)に火災があり、貴重な十一面観音像や白狐像、棟札などを焼失しております。

福田の人形まつりは、お盆すぎの八月十八日行われ、集落の人々は準備のため早朝から神社に集まってきました。もともと、人形まつりは天保年間に飢饉があり疫病が流行したため、悪病退散のまつりとして集落内で始められたと伝えられています。

その後、昭和に入ってから神社のお祭りと一緒に行われるようになったといえます。人形の材料となる、麦殻や藁など持ちより、それぞれ作業を分担し、手際良く進めていきま

こよみ



7月11日～8月10日

★7月★

- 11日(金) 世界人口デー
- 12日(土)
- 13日(日)
- 14日(月) 検疫記念日
- 15日(火) 4カ月児健康診査(市保健センター)、勤労青少年の日
- 16日(水)
- 17日(木) 法律相談(市役所市民相談室)
- 18日(金)
- 19日(土)
- 20日(日) 折爪岳散策とヒメポタルツアー(折爪岳、海の日)
- 21日(月) 振替休日
- 22日(火) 1歳6カ月児健康診査(市保健センター)、市長と語る日(市長室、土用の丑)
- 23日(水) 大暑(二十四節気)
- 24日(木) 行政相談(市役所市民相談室)
- 25日(金)
- 26日(土)
- 27日(日)
- 28日(月)
- 29日(火)